

**令和4年度 埼玉県高等学校PTA連合会
高校教育とPTA専門委員会研修会 参加報告**

開催日 令和4年11月15日(火) 10:00~12:00

会場 埼玉会館 小ホール

主催 埼玉県高等学校PTA連合会

参加者 谷ヶ崎

11月15日、埼玉会館にて、埼玉県高P連による研修会が行われた。

「高校教育とPTA」に関する研修を通してPTA役員としての資質を高めるとともに、PTA活動の活性化を図ることを目的として、各学校のそれぞれの取り組みが発表された。

【研究協議】

東部支部 埼玉県立春日部東高等学校

【春日部東高校における高校教育とPTA】

合い言葉は校歌の歌詞にもある『さわやかに りんりんと いさぎよく』

PTA・後援会ではそれぞれのバッチをつけて活動をしている。

文武両道を実践し進学者のうち、88%の生徒が部活動をやり直し勉強と部活動を両立させている。そこでPTAでは子どもたちの学習環境の整備に取り組むことにした。

PTA後援会の補助により、4万冊の蔵書で充実した図書館で子どもたちの学習を支えている。また、質問デスク、廊下の学習デスク（PTA後援会の補助、卒業記念品で設置）を置き、いつでもどこでも勉強ができる学習習慣の確立、勉強マラソン（7:00~19:00まで勉強する）の為に、90人が学習できる机と椅子を購入した。

- 保護者が学校教育に積極的に関わることで、子供たちの学ぶための大きな手助けになっている。
- 学校と関わりながら、学校に足を運び我が子を見て成長を感じ取ることができる。
- 保護者は学校と連携を取り、その役割を果たしていかななくてはならない。
- PTA後援会と学校がお互いに理解し合い協力し合うことで信頼関係が構築され、学校と家庭の距離を縮めていくことが大切である。
- PTA後援会組織は趣旨を会員に浸透させ、連帯感を持つことが大切である。

西部支部 埼玉県立新座総合技術高等学校

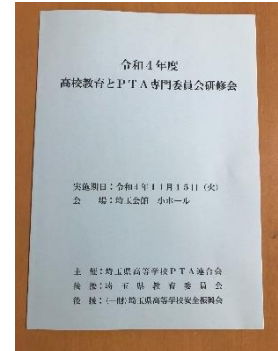
【コロナ禍におけるPTA活動】

「何もできない、何もしない」ではなく、「ピンチをチャンスに」ということで、PTA活動の見直しをして、活動の簡素化、人数削減、仕事の均等化などを改善した。

PTA活動は生徒や学校のサポーターに徹することを共通認識とし「役員・理事が無理をしない。強制しない。楽しく参加できるように」を基本に考えている。

総会後の歓迎会は飲み会のような親睦会でなくても親睦が図れるように工夫した。

広報誌においてはコロナ禍で行事が少ない中、デザイン学科卒業で現在デザイナーの方の協力で以前の充実した内容を継続し発行することができている。また、PTAポロシャツはデザイン学科の生徒がデザインしたものである。



3年ぶりに参加したこぶし祭ではPTA主催の内容を知る経験者がいないため、PTA各部の活動報告として写真などを展示した。

今後この「ウィズ・コロナ」から「アフター・コロナ」となったとしても、この3年間の改革が「良い改革であった。」とか「誰もが気軽に自分の子どもや学校の生徒さんを応援できる活動だ。」と思えるように取り組んでいきたい。

南 支部 埼玉県立与野高等学校

【「持続可能なPTA活動の模索」～コロナ禍を教訓として～】

「二兎を追い、獲得する。」がモットーの下、「確かな学力、部活動生徒会活動の充実」を目標に日々の教育活動を進めている。その中でPTAはすべての役職が立候補により選出され、意欲的な活動が行われていた。しかし新型コロナウイルスの流行によって、令和2年（2020年）のPTA活動は最低限のことを除けば事実上の休止状態になる。

令和3年（2021年）はコロナ禍の下でもできること、やれることを模索する。密を避けた分散開催や電子会議アプリケーション（Google Meet）を使って2つの会場で互いに別会場の動画や音声を視聴できるようにして議事を進行した。大学のWeb見学会、PTA主催講演会の直接参加と動画をプロジェクターで視聴するリモート参加で行う。これらを可能にした背景には急速にすすめられた学校ICTの整備の恩恵が大きい。

令和4年（2022年）コロナ禍の下で得られたノウハウは、コロナ後の活動にも生かせると考える。感染予防対策というのではなく、リアルな参加とオンラインやリモートを使い分け、PTA活動に参加できなかった保護者にも無理なく参加できる「持続可能なPTA活動」を構築できた。

北部支部 埼玉県児玉白楊高等学校

【新たな「高校教育とPTA」の在り方を模索して】

児玉高校と児玉白楊高校の統合による児玉新高開校に向けたPTAの取り組みを行う。来年度からは一つの組織として活動をしていかななくてはならないため、両校の交流を意識した活動内容で、2校合同で研修旅行やPTA・後援会支部親善ソフトバレーボール大会の実施のための練習会（大会は感染拡大のため中止）を行った。

例年のPTA活動が実施できない状況の中、既存の取り組みである生徒と小学生と保護者の体験講座にPTAも参加・体験した。そこで専門学科である本校の魅力を実感できることができた。

この取り組みは高校の教育活動の中身を知ることのできる有意義な取り組みとなった。

PTAの役割は、学校行事のサポート役が定番だったが、今後は一歩踏み込んだ「連携・協働」が重要になる。児玉新校は地域とのパイプ役というPTAの新たな役割を示した。「見守り」「声掛け」「学校との協働」を軸に「新生・児玉高等学校」を楽しく支援していきたい。

【所感】

新型コロナウイルス感染症拡大から1年目は、ほとんどの学校行事、PTA活動が中止になった。2年目に入りPTAの活動は制限され何もできない中でも、それぞれの学校では新しい取り組みにチャレンジをしている。3年目の今、先の見えない未来に私達も学校、保護者、そして地域を味方に付け持続可能なPTA活動によって子どもたちを支援できたらよいと思う。

（文責 本部）